

78期生卒業証書授与式 式辞

春の気配が日に日に濃くなり、先週末には藤蔭の庭の梅も満開を迎え、池にいる4匹の亀たちも活動をはじめました。

本日、こうして皆さんの卒業式を挙行できますことを、何よりもありがたく思います。

はじめに、公私ご多用の中ご臨席賜りました、学校運営協議会、後援会、藤蔭会、PTAのご来賓のみなさまに高いところからではございますが、心からお礼申しあげます。誠にありがとうございます。皆様方には、平素より本校教育に深いご理解と多大なご支援をいただいておりますことに、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

78期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

4月からは、それぞれが選んだ新しい道へと踏み出していきます。高校生活で培った力を存分に発揮し、新たな環境でも皆さん一人ひとりの個性が輝くことを期待しています。

皆さんが中学生だった3年間は、新型コロナウイルス感染症とともにありました。春日丘に入学した頃、学校行事にもまだ制限が残っていましたが、皆さんは先輩たちが復活させた藤蔭祭や部活動の姿を受け継ぎ、より良い形に定着させてくれました。皆さんの何事にも主体的に楽しむ姿が印象に残っていますし、心から感謝しています。

今ではコロナ禍の記憶も薄れつつありますが、今日のように当たり前と思いがちな日常が、多くの支えによって成り立っていることを、決して忘れないでください。

皆さんがこれから飛び込む社会は、予測の難しい時代にあります。国際情勢の緊張により、多くの民間人が犠牲となる痛ましい状況が続いています。戦後80年を経て、私たち一人ひとりが平和を守ろうとする意識を持つことの大切さを改めて感じています。

また、スマートフォンやSNSの広がり、AI技術の急速な発展により、情報はかつてない速さで行き交っています。多くの人がその便利さを享受している一方で、誹謗中傷や無責任な発信が人々を傷つけ、社会の分断を生むことにもつながっています。「投稿」ボタンひとつが、誰かを支えもすれば傷つけもする時代です。

皆さんには、情報を正しく見極め、自分の意志で判断する力を、これからも磨いてほしいと思います。

そのために必要なのは、周りの人と心を通わせる力です。

心と心を通わせられるような人と人との関係は、挨拶から始まると私は考えています。挨拶は「敬意を持って互いを認め合う」行為です。

私は通用門での朝の挨拶を通して、立ち止まって声をかけてくれる人、イヤホンを外して丁寧に応えてくれる人、笑顔で先に挨拶してくれる人など、一人ひとりの個性と温かさを感じてきました。皆さんの姿に、私は未来への希望を見えています。どうか卒業後も、挨拶を大切にし、良好な人間関係を築いていってください。

さて、昨年開催された大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、世界の国々が集い、最新の技術や持続可能な社会の姿が示されました。多様な文化に触れることは、平和を築く第一歩でもあります。皆さんには、身近な人との関わりを大切にするとともに、世界に目を向け、多様性を理解し合う広い視野を持つてほしいと思います。

昭和100年を越え、令和も8年目を迎えました。

「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」——令和の名に込められた思いの通り、一人ひとりが大切にされる平和な時代を、皆さん自身の手で作り出していってください。

結びにあたり、保護者の皆さま、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。これまで本校の教育活動をご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございました。成人を迎えた生徒も多くありますが、自らの力で歩み始めるまでには、まだ皆さまの温かい見守りが必要です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

78期生の皆さんが、春日丘高校で培った力に自信を持ち、自分らしく、新しい舞台で飛躍されることを心より願い、私からのメッセージといたします。

令和8年3月3日

大阪府立春日丘高等学校

校長 濱崎 年久